

平成17年12月（第5回）議会一般質問事項

1 来年度予算について

- (1) 方針・考え方
- (2) 重点項目
- (3) 合併特例債事業
- (4) 財政見通し

2 夏まつり・各種イベントについて

3 小・中学校における教育施策について

(1) 少人数指導の取り組み

ア 現状

イ 今後の対応

(2) 体験活動

ア 現状と成果

イ 今後の対応

ただいま議長のお許しをいただきましたので、東クラブを代表して私の一般質問を行います。

今回、私の質問は大きく分けまして3項目あります。

まず初めに、来年度予算について市長にお伺いしたいと思います。

20万都市伊勢崎市になりまして、二度目の予算編成の時期を迎えたわけです。

平成17年度におきましては、合併する前からの引き継ぎ、あるいは旧市町村

の積み上げの予算であったかと思われます。総額にいたしまして618億7,000万円、4市町村及び医療、消防等が合わさって6つが1つになり、花開く予算であったかと思ひます。こうした中で、来年度におきましてはどのように編成するのか、関心の強いところであります。地方自治体は住民ニーズにこたえるべく合併により行財政改革を進め、いかにスリムで低コストの効率的な行政サービスを提供できるか問われていると考えられます。

そして、矢内市長は計画から実行に移すため、この20万都市伊勢崎市の市長として新市建設計画の推進と財政の健全化、常にこの2つを意識し、行政を推進していくのだと思われます。

そうした意味合いからも来年度予算は矢内一雄市長のカラーを、そして20万都市伊勢崎市のカラーを出し、市民の皆さんが期待できる予算でなくてはならないと私はそう確信しておりますが、いかがでしょうか。

新市の施策に次の5項目があります。みんながまとまり、協力しあって暮らすまち、2つ目にみんながうるおい、のびのび暮らすまち、3つ目にみんなが元気に、躍動して暮らすまち、4番目、みんなが笑顔で、安心・安全・快適に暮らすまち、そして最後、5番目にみんながなごやかに、いきいき暮らすまち、こうした5項目を新市建設計画の中で掲げてあります。

その施策について実行に移す段階だと思われます。

皆さんが新しい伊勢崎市に期待しているのではないかと思ひます。

そこで、来年度の方針、予算編成に当たっての考え方をお伺いいたしたいと思ひます。

2点目に、新市建設計画等に基づき幾つかの事業が予定されていると思ひます。この中で、新市建設計画、先ほど述べた5項目等のぶら下がり事業というのですか、それを推進していくための項目があろうかと思われます。

その中で来年度の重点項目をどう考え、どう実行していくのかも伺いたいと思ひます。

3点目といたしましては、来年度に合併特例債事業はどんな計画があるのか。また、予算規模はどのくらいを考えているのか、伺いたいと思ひます。そして、それらの今まで述べた事業を実施するに当たり、財政の見通しはどのように考えているのかであります。

また、平成18年度においては、3年に一度の固定資産税の評価がえの時期だと聞いております。

そうした中で、市民税、固定資産税の税収見通しはどう予測を立て、地方交付税等はどのような見通しであるか、あわせてお尋ねいたします。

次に、項目の2項目め、夏まつり・各種イベントについて伺いたいと思ひます。

合併になり初めての年を迎え、赤堀地区、東地区、境地区等でたくさんの催し物が開催されました。

その会場に市長、教育長は足を運び、つぶさにその状況を把握してきたと思います。

私はその行動について幾ら役目とはいえ、土曜・祭日・日曜日・夜いろいろな時間を費やし、その行動に対し頭の下がる思いでいっぱいです。

それらのまつりや産業祭等は地域の連帯感、なおかつ地域の力につながり、なくてはならないものだと考えられます。

そこで、それらの催しをどう受けとめ、どう感じ取ったのか、お二人にお伺いしたいと思います。

また、合併記念事業と表し、市民教養講座が何回か開催されました。

社会教育の一環としてその開催方法については会場の問題、また入場整理券の問題等、住民が戸惑う場面が多く見受けられました。

行きたかったのに落選という通知が来て、行けなくて残念であった、こういう多くの人たちの意見もあり、その辺のところに改善策をどう考えているのか、教育長にお伺いしたいと思います。

最後に、項目の3項目めといたしまして、小・中学校における教育施策についてお尋ねいたします。

時代や社会の大きな変化の中で、さまざまな課題を乗り越え、真に豊かな教養のある国家としてさらに発展していくためには、切磋琢磨しながら新しい時代を切り開く心豊かでたくましい自立した日本人の育成が必要であります。また、国家戦略として教育のあらゆる分野において人間力の向上のため、教育改革を一層推進していくことが重要であると考えられます。

とりわけ義務教育は人間形成の基礎であり、国民として共通に必要な資質を身につけるものであって、すべての教育の基礎になるものです。

特に本市においては新しい伊勢崎市が誕生したことにより、改めて県央20万都市にふさわしい教育が求められていると思われれます。

以上のような基本的な考えに立ち、人間力の向上を図るという観点から、小・中学校における教育施策について、主に学力向上、豊かな心の育成面から、次の2点についてお伺いしたいと思います。

まず、第1点目ですけれども、群馬県では子どもを育てるなら群馬県のテーマのもと、独自に主要施策としてぐんま少人数クラスプロジェクトを実施しております。

このプロジェクトでは、主に少人数での授業の充実を図ることにより、確かな学力向上、また基本的な学習習慣、生活習慣の身についた児童・生徒の育成を

目指していると聞いております。

そして、本市でも子供を育てるなら伊勢崎市と呼べるよう、教育環境の一層の改善、充実を図っていく必要があると考えられます。

特に児童・生徒によりきめ細やかな学習指導を展開し、全市的な学力向上を図っていくことは、市民の願いでもあり、少人数指導の一層の充実が不可欠であると思われまます。

そこで、本市の小・中学校における少人数指導の現状及び一層の充実に向けた市教育委員会の今後の対応についてお伺いいたします。2点目ですが、現在の子供たちの様子を見ますと、自然や社会の中でさまざまな体験をすることが少なくなっているように感じられます。

こうした体験は広い意味で学習の基礎となり、豊かな心を育てるもとになると思います。本市の小・中学校においては、これまでチャレンジスクールやチャレンジウィーク、また中学校におけるクリーン作戦など体験活動に積極的に取り組み、大きな成果を上げてしていると聞いております。

そこで、本市の小・中学校における体験活動の中核であるチャレンジスクールやチャレンジウィーク、中学校別のクリーン作戦の実施状況とその成果及び今後のさらなる充実に向けての取り組みはどうなっているのか、あわせてお伺いいたしまして、質問を終わりたいと思います。